

「米に原因公表要求を」

市民団体、横須賀市を批判

米海軍横須賀基地（神奈川県横須賀市）に配備中のイージス巡洋艦「アンティータム」が基地沖の浅瀬に接触し、油漏れ事故を起こしてから約一カ月。米海軍は事故原因について「調査中」とし、詳細を明らかにしていない。地元市民団体は「原子力空母が同様の座礁事故を起こしたら、重大な事態も考えられる」と懸念し、原因の公表を求めない横須賀市を批判している。

（加藤寛太）

米艦座礁事故から1ヵ月「調査中」

基地司令部によると、事故は一月三十一日午前十時ごろ、基地の北東の沖合で発生。艦は停泊中に浅瀬に接触、スクリューを破損



米海軍のイージス巡洋艦「アンティータム」は2015年11月、フィリピン海で（米海軍提供）



され、最大約四千六百六十リットルの油圧作動油を流出した。タグボートにえい航され、同日中に基地に戻った。基地には原子力空母「ロナルド・レーガン」も配備されている。横須賀市で基地問題に取り組む呉東正彦弁護士は「もし原子力空母が座礁したら、原子炉を冷やす海水が取り込めなくなり、冷却機能に影響を与えて放射能漏れ事故につながる可能性がある」と指摘。アンティータムは原子力艦ではないが、座礁事故の再発防止のためにも、米海軍

「原子力空母なら重大事態も」

が原因を公表するべきだと訴える。

市は原因究明と再発防止を米海軍に要請したが、調査結果などの公表は求めないスタンス。基地対策課の



事故後初、オスプレイ共同訓練

群馬・新潟で来月に

米軍絡みの事故が相次いで中、昨年十二月の沖縄での新型輸送機オスプレイの大破事故後初めて、同輸送機が参加する米海兵隊と陸上自衛隊の共同訓練が群馬、新潟両県で二月に行われると、陸自が二十二日、発表した。事故から半年以内に作成すると日米が合意した「事故報告書」もまとまらない中でこの共同訓練となる。

陸自によると、訓練は六月十七日、参加するのは普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）所属の六機。横田基地（東京都福生市など）を拠点に相馬原駐屯地・演習

し沖縄県知事が「米軍の運用上の問題だから、オスプレイ墜落事故の原因は問わない」と言ったら、県民はどう思うだろうか」と市に疑問を投げ掛けた。

担当者は「米海軍の艦船の運用に関する事で、市が承認することではない」と説明する。

呉東弁護士は「市と米海軍の間は一定の緊張関係を保つべきで、なれ合いでは事故は防げない。市は自己規制せず、公表を求めるべきだ」と批判。

また基地監視活動を続ける非核市民宣言運動・ヨコスカの新倉裕史さんは「も

と話した。

事故を巡っては、米側が「空中給油訓練中の乱気流などが原因で、機体自体に問題はない」と説明し、日本政府が飛行を容認。六日後の昨年十二月十九日に、早々と飛行が再開された。空中給油訓練も、稲田防衛相が「原因を完全に特定するには至っていない」とコメントしながら政府としては同意し、今年一月六日に再開された。

日米地位協定では、米軍の公務中の事件事故は米軍の同意がないと日本側が現場検証できない。沖縄県によると、米軍が設置した規制線の内側での水質調査などを県が要請したが、認められなかったという。

（荘加卓嗣、井上靖史）

神 民 職 吐 つか の 結 明 人 事 査 本 院 予 院